

<「知るっば!久留米」 令和4年2月10日(木) 12:30~放送分>

三潞地域の魅力 ～第2回～ 「三潞地域の産業」

<ゲスト：くるめ創業ロケット 創業支援相談員 北村嘉伸さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

今月は、久留米市の南西部に位置する『三潞地域の魅力』をテーマにお送りしています。

ゲストはこの方です。

ゲスト:北村さん(以下「北村」)

こんにちは!三潞に住み続けて65年。三潞のことならおまかせの北村嘉伸です。

よろしくお願いします。

坂本 2回目の今回は、『三潞地域の産業』というテーマでお送りします。

前は、三潞地域の住みやすさや交通の利便性などをご紹介しました。

今回は、地域を支える産業について伺っていきます。

まずは、三潞といえば農業が有名ですが、どんな作物が栽培されているんでしょうか?

北村 農産物としては、水田農業が中心なので、穀物類の米、麦、大豆と

福岡県内で唯一栽培されているハト麦が有名です。

また、野菜類では今が旬のイチゴと、初夏に収穫される玉ねぎが栽培されています。

田んぼで玉ねぎ栽培を始めたのは、三潞が最初なんですよ。

現在は佐賀県が一大産地になっていますけどね…。

坂本 広い平野で土地利用型農業が盛んですよね。

まずは穀物系から伺っていきます。お米はどんな種類が生産されているんですか?

北村 JA 三潞に確認したところ、令和3年産の食用米は、「ヒノヒカリ」が生産されていて、
県産ブランド米として皆さんも食べられていると思いますよ。

それから、お酒好きな方なら聞かれたことはあるかもしれませんが、日本酒の原料として、
福岡県が品種開発した「夢一献」も生産されていて、県内の主要産地となっています。

三潞地域の蔵元でも酒米としてたくさん使われていて、

溶かしても味が重たくなりにくいとの声もあり、評価も高いようです。

このほか、餅やおかきなどの原料になる「もち米」も多く生産されています。

坂本 古くから酒蔵も多い地域ですが、やはり良い米がとれる環境があるんですね。
それからハト麦の生産も有名で、ペットボトル飲料も出されていますよね？

北村 ハト麦は、昭和 55 年に米の転作作物として栽培が始まり、特産品化が進められていきました。
JA 三潁では、「はとむぎ茶」としてティーバッグやペットボトル、
それに「ハト麦入り米味噌」が商品化されています。
また、久留米南部商工会のハトムギプロジェクトでは、化粧品やビール、健康食品、
お菓子などの商品開発がすすめられ、関係企業や店舗で販売もされています。

坂本 私も「はとむぎ茶」はいただいたことがあるんですけども、香ばしくて、すっきりした味わいですよね。
健康志向が高い中で、ハト麦の商品開発が進んでいるんですね。
次にイチゴの栽培はどんな状況でしょうか？

北村 福岡県のイチゴといえば、「あまおう」ですよ。
三潁地域でイチゴ栽培が始まったのは昭和 40 年ごろからで、現在の栽培面積は10ha ほどで、
イチゴ農家のほとんどが全国ブランドの「博多あまおう」を栽培されています。
ただ、全国的に言えることですが、生産者の高齢化による離農・廃業がある中で、
Uターンなどでイチゴ農家を始めた若い人たちの新規就農が増えています。
中には、新規就農から毎年のように生産面積を拡大し、観光イチゴ園を始めた農業法人もあります。
若い人たちは、IT を活用した栽培・生産技術を取り入れたり、
情報発信による販路開拓などにも取り組み始めたりしているみたいですね。

坂本 あまおうはイチゴの中でも特においしいですよ。
若い農業者が、これからの地域農業を支えてくれるといいなあとと思いますね。
さて、三潁といえば久留米を代表する植木「黒松」でも有名ですよ。
市内のあちこちに植栽されているのを見かけます。

北村 三潁地域の黒松の生産は、畑地や原野が多かった西牟田エリアの丘陵地帯での植栽から始まり、
広がったものです。
西牟田エリアの十連寺公園から北にのびる道路の両側には、生産者が丹精に仕立てられた
庭園用の黒松が植栽されていて、深い緑の造形が広がっています。
ところで、黒松栽培のルーツですが、もともとは、久留米の寺町にいた住職にあるそうですよ。

坂本 久留米の寺町にそのルーツがあるんですね。

北村 寺町の誓行寺には、松ともみじが美しい庭園がありますが、
これは、明治時代に指折りの庭師と言われた阿理成(ほとりりじょう)住職が整備したものでした。
阿(ほとり)住職は、佐賀県神埼市にある紅葉で有名な「九年庵」の庭園づくりにも携わるなど、
九州では特に有名だったそうです。

お弟子さんも多く、その中に「三瀧の黒松」の創始者である岩隈荘太郎さんがいたそうです。

坂本 阿さんは造園家の先達として有名ですが、そこから三瀧の黒松に繋がるというのは面白いですね。

北村 岩隈荘太郎さんは、荒松を美しく仕立てる研究を熱心に続け、

「三瀧の黒松」を完成させたと言われています。

その生育技術は、地域に広まり、親から子へ、子から孫へと伝承され、植栽面積も拡大してきました。

現在も庭園用黒松を仕立てる独自の技術と生産力は、全国でも屈指と言われていて、

海外でも人気が高いそうですよ。

皆さんも、一度、三瀧に見に来てください。

坂本 世界的にも注目されている黒松を、これからも大事にしていきたいですね。

北村さん、今回もありがとうございました。

次回は「三瀧地域の歴史」についてご紹介します。

お楽しみに！